

2004年 事業計画書

1. 事業実施の方針

アジアで社会的に弱い立場の人々、特に経済的に貧しい子ども達や家族に対して、生活向上・教育・福祉・医療に関する支援活動をおこなう。また、これらの人々の自立支援を進めると同時に、アジアの人たちとの相互理解を促進するために、今年は以下の点に留意して事業活動を展開する。

- 1) フィリピンの社会的に弱い立場にある人々、最低限の生活を維持するための収入を得られない人々、就学の機会が与えられない子どもたちを優先的に支援する。
- 2) これらの人々の自立や健康の維持を支える活動をおこなう。
- 3) これらの人々の暮らしに関わる諸問題を、日本の一般の方や子ども達と共有し、同じ時代を生きるものとして、お互いを尊重しあい、共生できる社会を実現するための活動を続けていく。

2. 事務局の運営

(1) 日本事務局

1) 実施内容

社会的・経済的に厳しい環境にあるフィリピンの子供達や家族の自立支援と課題の共有のため、プロジェクト全般に関する活動をおこなう。実施内容は下記のとおり。

- ・ フィリピンや日本の活動全般にかかわる事務作業、経理作業、報告や会報の作成
- ・ 会員、協力者、一般からの問合せや訪問への対応
- ・ 学校訪問講座、写真展、活動報告会などの国際理解教育活動
- ・ フェアトレードの販売促進、在庫管理
- ・ スタディツアーの実施
- ・ インターン・研修生等の受入と研修

今年は、フィリピンの実情と支援活動をより多くの人に伝えると同時に、会員・協力者が主体的に活動に関わる機会の提供に力を入れる。また、アジアで支援活動をおこなっている他団体とも連携し、アジアの現状を広く社会に伝える活動をおこなう。これらを通じて、法人の活動の更なる充実・発展を図る。

2) 実施場所

I C A N日本事務所、愛知県国際交流協会、名古屋国際センター他

3) 実施形態

有給スタッフ2名、理事5名、ボランティア50名、インターン7名が協力して実施

4) 管理費 予算書を参照

(2) マニラ事務局

1) 実施内容

現地法人を運営し、パヤタス・サンイシロのプロジェクト全般に関することをおこなう。実施内容は下記のとおり

- ・プログラムの実施、評価とモニタリング
- ・活動全般にかかわる事務作業、経理作業、報告の作成
- ・スタディツアー受入・訪問者への対応
- ・フェアトレードの販売促進、在庫管理
- ・インターン・研修生等の受入と研修

今年は、より質の高いプログラムの実施と団体運営能力の向上に力点を置く。このため、活動に関わるマニラ事務局内(スタッフ、ボランティア、インターン間)や日本事務局との間の連携強化、事業評価能力の向上など、チームとしての事業実施能力の向上を図る。また、他の支援団体やフィリピンの行政や日本の国際協力機関(大使館やJICA等)との連携を深め、住民本位で住民主体の活動を推進する。これらを通じて、現地法人の活動の更なる充実・発展を図る。

2) 実施場所

I C A Nマニラ事務所(ケソン市)、パヤタス、サンイシロ他

3) 実施形態

有給スタッフ2名、ボランティア5名、インターン3名が協力して実施

4) 管理費 予算書を参照

3 事業の実施に関する事項

A. 特定非営利活動に係る事業

ミンダナオにおける支援活動

ミンダナオ島の南部にあるジェネラルサントス市は人口41万人、世帯数86千、バランガイ(行政単位)数26の地方都市である。市平均の収入は比較的多いが、貧富の差が激しい。イスラム系武装勢力の影響を受ける地区にあり、情勢は不安定である。

同市において、貧困や民族を理由に社会から阻害されている家庭の子ども達を対象に、正当な教育を受けられるよう、里親(通学)支援と給食支援の二つの支援事業をおこなう。

本年は、特に、給食支援における学校とのコミュニケーションや事業評価の改善を図るために、現地にコーディネーターを置く。また、ハイスクールの卒業により里親プログラムを終えた奨学生を対象に、さらに大学への進学への支援を受けられるリーダー養成プログラムを試行する。

(1) 里親(通学支援)事業

1) 事業内容

経済的な理由から学校に通えない子ども達の就学を金銭面・精神面で支援する。支援はスポンサー1人が1人の子どもを支援する里親形式で実施する。子ども達には、学費・学用品費・制服代等の通学に必要な経済的支援、医療費の支給、学校生活に関する相談、補習等を行う。子どもの家族に対しては、ソーシャルワーカー等の家庭訪問等を通して、衛生や栄養改善などの生活指導を行い、家族等の収入向上を図る自立支援プログラムを試行する。さらに、里親支援の修了生から1名を選考し大学への進学を支援する次世代リーダー育成プログラム(資金は運営費から拠出)を試行する。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントス市およびその周辺

4) 実施形態 現地福祉法人 Love and Life Inc.(以下、L&L)に事業委託して実施。

5) 受益対象者の範囲及び予定人数 貧困家庭の子ども160名とその家族。

6) 収入見込み額

里親会費(事業分)	2,304,000円	(¥18,000×160名×80%)
運営費からの拠出金	44,000円	(次世代リーダー養成資金)
合計	2,348,000円	

7) 支出見込み額

L&Lへの委託費 2,010,000円

L&Lへの委託費の内訳

子ども達への直接支援	950,000円	(学費・学用品・制服代等)
特に厳しい家庭への重点支援	100,000円	(交通費、昼食代等)
医療費の支給	105,000円	(薬代、診療費)
生活指導ミーティング	95,000円	(含、職業訓練、生活指導)
L & L人件費	520,000円	(含、研修費、社会保険)
L & L運営費	240,000円	(賃借料、交通費、通信費等)
連絡調整員滞在/渡航費等	200,000円	(日本人ボランティア等)
自立支援プログラム準備費	146,000円	
次世代リーダー養成プログラム	44,000円	(学費等の支援)
合計	2,400,000円	

* 差額の52,000円は里親基金からの拠出。

(2) 給食事業

1) 事業内容

現地の小学校で、栄養状態のよくない子ども達に栄養価の高い給食を提供し、栄養状態や健康面の改善を図ると共に、就学の意欲を高め、就学率の向上にも役立てる。また、現地との調整を円滑に進めるため、現地にコーディネーターを置く。

2) 実施予定日時 通年(週1回の実施)

3) 実施予定場所 フィリピン国南コタバト州ジェネラルサントス市内の3校他

(1) P. Kindat Elementary School (以下、PKES)

(2) Sarif Mucsin Elementary School(以下、SMES)

(3) Bawing Elementary School(以下、BES)

他、支援の必要な学校があれば、二校を限度に支援を検討する。

4) 実施形態

各小学校に事業委託して実施。校長を始め教師が、児童およびその親と協力して、調理、給仕、事業管理を行う。給食コーディネーター・ボランティア調整員は、日本と調整の上、随時、給食の監査し、提出書類の調整、ニーズ調査をおこなう。

5) 受益対象者の範囲及び予定人数

フィリピンの公的機関評価基準により、子供たちの健康状態を体重・身長で、「Severe(重度)」、「Moderate(中度)」、「Mild(軽度)」、「Normal(正常)」の4段階評価し、この内、重度と中度を給食受益対象者とする。各校の予定人数は、(1) PKES 50名、(2) SMES 100名、(3) BES 100名。他、必要に応じて対象となる学校については、調査の上、追加対象を250人以内で調整する。

6) 収入見込み額

給食会費(事業費分) 144,000円(¥6,000×30名×80%)

給食寄付金(事業費分) 240,000円(¥300,000×80%)

収入合計(見込み額) 384,000円

7) 支出見込み額

事業委託費 192,280円

各校への事業委託費の内訳(食料費、光熱費、報告代)

PKES 43,560円 (7×50×40 + 100×40 + 600×3) PHP×2.2円/ PHP

SMES 74,360円 (7×100×40 + 100×40 + 600×3) PHP×2.2円/ PHP

BES 74,360円 (7×100×40 + 100×40 + 600×3) PHP×2.2円/ PHP

予備費 107,720円 (他の学校での実施資金等)

コーディネーター謝金 100,000円

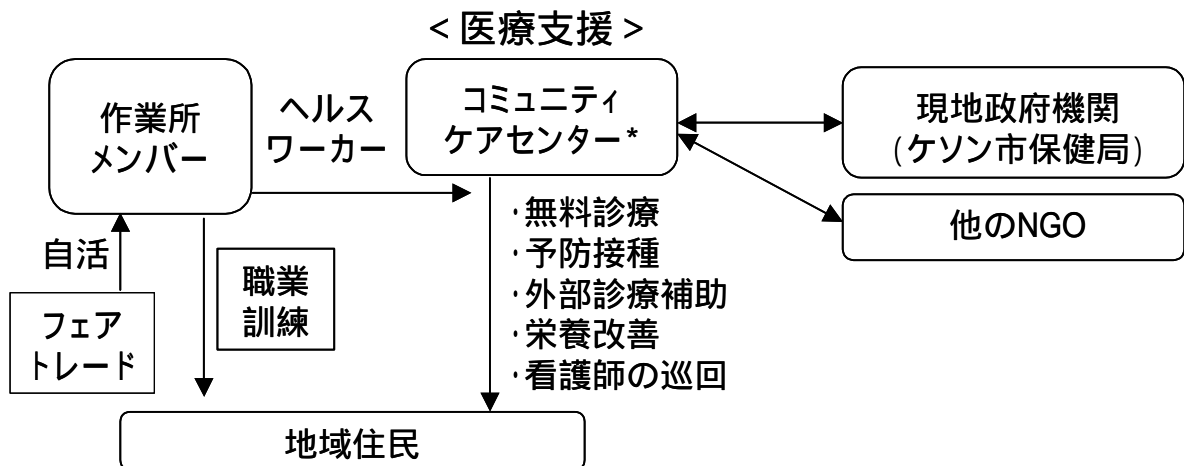
連絡調整員活動費等 100,000円

支出合計(見込み額) 500,000円 * 差額は給食基金から拠出。

パヤタスごみ処分場周辺での支援活動

マニラ首都圏ケソン市パヤタスには、ケソン市のごみが集積されるごみ処分場があり、巨大なごみの山となっている。ごみの山からは有毒ガスが発生し、有害な物質を含むと思われる黒い水が流れ出しており、非常に劣悪な環境でおよそ1万人が暮らしている。そのうちおよそ2000人がごみの山でリサイクルできるものを回収し、近くの廃品回収業者で換金し、経済的に非常に困窮した生活をしている。

この地区において、周辺の住民を対象に、医療・栄養面を改善する医療支援と、ごみの山で働くこと以外の生計の手段となる技術や副収入を得られる技術を普及させ、住民の収入向上を目指す職業訓練、訓練で得た技術を実際に収入につなげるよう支援するフェアトレード支援事業をおこなう。



パヤタス関連の活動の全体図

(3) 医療支援事業

1) 事業内容

パヤタスごみ処分場周辺で経済的に貧しい地域住民の健康を高めるために、地域の医療の核となるケアセンターを中心に、以下の活動を行う。

無料診療活動：週2回、毎回一名の医師による診察、看護師、コミュニティーヘルスワーカーによる補助。

予防接種：ケアセンターで、または地域を巡回し、看護師が三種混合、経口ポリオ、はしか、破傷風などの予防接種やビタミンA供給などを行う。

外部診療補助：外部の医療機関での治療を促進するために交通費や検査費などを支援する。

栄養不良児の栄養補給のための給食と母親学級の開催：週に5回、栄養価の高いおやつを6ヶ月から3歳未満の栄養不良児に提供する。母親対象の栄養や健康についての母親学級を開催する。

コミュニティーヘルスワーカー（CHW）の研修：地域住民の中から候補者を募り、研修を行う。CHWは無料診療、給食提供、看護師の家庭訪問などを手伝う。

看護師による巡回：対象地域の家庭を訪問し、まだ治療を受けずにいる病人を探すとともに、無料診療で診察を受けた患者、外部診療支援を受けている患者のフォローアップを行う。

医療NGOや政府機関とのネットワーク作り：地域の医療サービスの質的向上を目的に、他団体と連携する。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 ケソン市パヤタスルパンパガゴ第2地区

4) 実施形態

有給スタッフ2名、ボランティア5名、インターン3名、医師2名、看護師1名、コミュニティヘルスワーカー14名が協力して実施

5) 受益対象者の範囲及び人数

ケソン市パヤタス第2地区の住民およそ800世帯（人口約4000人）

6) 収入見込み額

医療会費(事業分)	120,000円	(医療会費の80%)
医療寄付金(事業分)	560,000円	(医療寄付金の80%)
JICA草の根技術支援金	6,500,000円	(うち110万円は管理費分)
合計	7,180,000円	

7) 支出見込み額

無料診療(医師・看護師等)	520,000円	栄養改善食費等	200,000円
ヘルスワーカー研修/活動費	75,000円	コーディネーター人件費	420,000円
予防接種、薬代&外部診療	750,000円	ケアセンター備品/賃借料	650,000円
作業所賃借/訓練費/備品等	60,000円	渡航費/事務所賃借料	525,000円
日本人スタッフ人件費	2,500,000円		
合計	5,700,000円	(医療支援分30万円,草の根支援分540万円)	
別途,管理費(間接費)	1,100,000円	*残金の38万円は、パヤタス基金に組入れ	

(4) 職業訓練事業

1) 実施内容

パヤタスごみ処分場周辺の住民を対象に、危険なごみ捨て場で働くこと以外の手段で、経済的自立を目指すことができるよう、必要な技術を普及するための職業訓練をおこなう。訓練に参加した住民でグループを作り、小規模のビジネスを始められるよう支援する。また、指導を行う住民グループメンバーの技術や指導力の向上のために、他団体のセミナーや研修などに派遣する。

2) 実施予定日時 通年、週一回

- 3) 実施予定場所 ケソン市パヤタス ルパンパガゴ第2地区 (共同作業所)
- 4) 実施形態 有給スタッフ2名、ボランティア5名、インターン3名、住民グループ14名、住民グループの指導者3名と協力して実施する。
- 5) 受益対象者の範囲及び人数 ケソン市パヤタス第2地区の住民およそ250名
特に、高校中退の女子、シングルマザー、スカベンジャーの女性、貧困家庭の女性、栄養不良児の母親を優先する。
- 6) 収入見込み額
職業訓練会費 (事業費分) 96,000円 (¥6,000 × 20名 × 80%)
職業訓練寄付金 (事業費分) 80,000円 (¥100,000 × 80%)
収入合計 (見込み額) 176,000円
- 7) 支出見込み額
- | | |
|-------------|----------|
| 作業所備品 | 10,000円 |
| 託児スペース備品 | 25,000円 |
| 作業所雑費 | 5,000円 |
| ニーズ調査 | 40,000円 |
| 指導員研修費用 | 80,000円 |
| 予備費 | 40,000円 |
| 支出合計 (見込み額) | 200,000円 |
- * セミナー開催費用や賃借料はJICA草の根支援の対象。
* 不足分24,000円はパヤタス基金から拠出。

(5) フェアトレード事業

1) 実施内容

ゴミ拾いに経済的に依存した女性たちの自立を支援するために、作業所で製作したフェアトレード製品を、マニラや日本において、バザー・通信販売・委託を通して、販売する。

マニラでは、住民グループの女性たちも積極的に販売に携わり、販売技術や顧客対応を学んだり、販売に耐える製品作りに必要な情報を得る。今年は、製作者の技術の向上、新製品の開発、販路拡大などを重点課題とする。住民グループの福利厚生 (社会保障制度の加入) などについても検討する。

この事業での収益は、住民グループに労賃として還元されるとともに、作業所の運営費などになる。また、他のNGOが製作したフェアトレード製品についても、販売をおこなう。将来的には、フェアトレードの収益で、医療事業や職業訓練事業に必要な経費を捻出できるよう、黒字運営を目指す。

日本では、地域や国際協力関連のイベント・バザー、高校・大学の文化祭、通信販売、委託等を通して、販売する。

これにより、作業所の女性たちの経済的な自立を支援すると同時に、フィリピンやアジアの人たちの実情を理解し、身近な消費活動を通してできるフェアトレードについて理解を深める。

2) 実施予定日時 通年

3) 予定場所

ケソン市パヤタスルパンパガゴ第2地区の作業所、
マニラのイベントや学園祭や地域のバザー、
インターネットによる通信販売、店舗等への委託販売など

4) 実施形態 有給スタッフ2名、ボランティア5名、インターン3名、住民グループ14名、店舗、地域住民、イベント実施者等と協力して実施する。

5) 収入見込み額

マニラでの売上	1,100,000円
日本での売上	1,400,000円
収入合計(見込み額)	2,500,000円

6) 支出見込み額

製作者への労賃	800,000円
材料費	500,000円
送料	300,000円
作業所雑費等	150,000円
その他の支出	170,000円
予備費	200,000円
支出合計(見込み額)	2,120,000円

山村サンイシロでの支援活動

サンイシロは人口の半数を先住民族(ドゥマガット族)が占める山村である。電気や水道などの社会基盤設備のないこの村で、住民は主に水田や焼畑で米や野菜を作って生計を立てている。米などの収穫は一家を支えるのに十分ではない。先住民は、自分たちが経済的に貧しく、学校教育をほとんど受けていないが、自分たちの村を愛し、村での自分たちの生活を少しでも良くしたいと努力している。先住民が誇りを持って生きられるように、教育、生計向上のための支援を行う。

(6) 山村教育支援事業

1) 事業内容

リサール州アンティポロ市の山村サンイシロに定住した先住民(ドゥマガット族)の支援活動を行う。プレスクール(幼稚園)の運営の支援、ハイスクールに通うための奨学金を支給する。また、フィリピン人スタッフを雇い、現地のニーズの調査、新しいプログラムの開発などを行う。

2) 実施予定日時 通年

3) 実施予定場所 アンティポロ市バランガイ・サンホセ、シティオ・サンイシロ

4) 実施形態 住民組織MASAKAを通じて支援する。

5) 受益対象者の範囲及び人数

サンイシロ在住のドゥマガット族を中心に50家族。

6) 従業者の予定人数

現地スタッフ2名、MASAKA役員数名、プレスクール教師1から2名。

7) 収入見込み額

山村教育会費(事業分) 120,000円 (¥6,000×25名×80%)

山村教育寄付金(事業分) 80,000円 (¥100,000×80%)

収入合計(見込み額) 200,000円

* 不足分は、山村教育基金から拠出。

8) 支出見込み額

奨学金 96,000円 (6400円×15人)

プレスクール 40,000円 (教師謝礼金 4,000円×10ヶ月)

果樹木植樹 14,000円 (1400円×10家族)

調査員人件費 160,000円 (20,000×8ヶ月)

支出合計(見込み額) 300,000円

相互理解を促進する活動

(7) 国際理解教育事業

1) 事業内容

フィリピンやアジアで経済的に厳しい環境にある人々の生活、児童労働の実情、南北格差や貧困の現状などの諸問題について、多くの人と共有し、理解を深めるために、日本の小中高生や大学生、一般市民、団体を対象に以下の活動を行う。

1. 学校での授業、国際理解講座（自主企画、国際協力イベント等）の開催
2. 事務局への訪問者受け入れ
3. 教師を対象にした海外現場研修
4. フィリピンの子供達と日本の子供達の交流促進（文具提供・カード交流）
5. パヤタスの子供達の健全育成のために、青少年活動「サバイタヨ」を実施
6. 教材貸出（児童労働ビデオ、写真展用写真、オリジナル教材等）
7. 国際理解教育活動に関わる人材の育成、教材作成のアドバイス等

特に、今年は、学校での総合的学習の授業への参加も視野にいれて活動する。国際協力に対する社会の関心の高まりに応じて、本事業に対する社会の信頼を培う。

2) 実施時期 通年

3) 実施予定場所 日本事務局（NPOプラザなごや）、学校、名古屋国際センター、愛知県国際交流協会等

4) 実施形態 有給スタッフ2名、インターン3名、現地スタッフ2名、ボランティア10名が、学校やイベント主催者等と協力しておこなう。

5) 受益者対象の範囲及び予定人数 会員および一般市民 約200名、日本およびフィリピンの生徒 約1000人

6) 収入および支出見込み額

収入見込み額

国際理解教育事業収入	1,000,000円	（学校訪問謝礼、講師派遣謝礼金等）
委託事業収入	160,000円	（名古屋NGOセンター、アルシュ）
国際理解寄付金(事業分)	240,000円	（含、物資寄付金、カード寄付金）
合計	1,400,000円	

支出見込み額

学校訪問・イベント等講師派遣	100,000円
イベント（写真展など自主企画）	750,000円
教材作成	250,000円
文房具の提供	150,000円
カードの送付	50,000円
サバイタヨ・マニラ訪問受入	100,000円
合計	1,400,000円

(8) スタディツアー事業

1) 事業内容

フィリピンでおこなわれている自立支援事業を見学し、国際協力活動について学ぶとともに、厳しい環境で暮らす住民の方と交流するスタディツアーを行う。サンイシロやパヤタスを訪問、ホームステイ・支援活動の視察・住民や子ども達との交流会等を通じて、住民のおかれた立場や国際間の問題について理解を深める。

2) 実施予定日時 年6回を予定。

3) 実施予定場所 マニラ首都圏、リサール州、南コタバト州ジェネラルサントス

4) 実施形態 当法人が企画、旅行代理店に委託して実施する。

5) 従業者の予定人数 事務局スタッフ2名、現地スタッフ2名、事務局インターン2名、現地インターン3名、ボランティア2名。

6) 受益対象者の範囲及び予定人数 会員および一般市民 36名。

7) 収入見込み額

ツアー参加費 1,440,000円(4万円×36名)

8) 支出見込み額

スタッフ渡航費	70,000円
交通費	240,000円
食費・宿泊費	300,000円
調整員費	40,000円
合計	650,000円

*別途、人件費、通信費等の管理費が必要。

B. その他の事業

(9) リサイクルバザー事業

1) 事業内容

会員や一般市民から提供された不要品をフリーマーケット等で販売する。

2) 実施予定日時 年に2回。

3) 実施予定場所 フリーマーケットおよび東輪寺など、名古屋市内およびその周辺。

4) 実施形態 ボランティアや会場提供者の協力を得て、実施。

5) 従業者の予定人数 無償ボランティア10名。

6) 収入見込み額

物品販売売上げ 200,000円

7) 支出見込み額

フリーマーケット会場費 20,000円

*この他、管理費(通信費、事務費)として、4,000円が必要。